

東南アジア周辺海域における海賊対策のための巡視船派遣式典参加について

海上保安庁は東南アジア周辺海域における海賊対策として 2000 年以降、巡視船を派遣のうえ監視警戒業務を実施してきたが、今回の派遣は 50 回目の節目を迎えることから、2025 年 1 月 8 日、神戸港において派遣式典が実施された。今回派遣される巡視船「せつつ」は 3 回目の派遣任務となる。

式典では、中野洋昌国土交通大臣より、派遣隊員に向けて、「海賊対策をはじめ海の安全確保に各国とともに取り組むことに期待する」旨のビデオメッセージによる訓示を行った。

また、瀬口良夫海上保安庁長官が、「今回の派遣の意義を十分認識し、一人一人が誇りを持って、自らの技能を遺憾なく発揮し、その責務を果たすことを願う。」と訓示した。

当協会からは篠原康弘理事長が、巡視船による監視警戒活動の重要性とアジア海域における海賊行為の減少に謝意を述べ、「海運事業者は、海上保安庁のリーダーシップのもと、関係各国諸機関との連携により、海賊対処の取組みが着実に進められることに期待申し上げる。」と挨拶した。

瀬口長官から行動指令書を受取った川崎千信船長は「わが国商船隊が多数航行する海上交通路の安全確保に努めてまいり所存です。」と出港報告を行い、巡視船「せつつ」は神戸港から出港した。

川崎船長の指揮する巡視船「せつつ」は、約 1 ヶ月間公海上での日本商船隊との海賊対処訓練や東南アジア周辺海域の海賊行為の監視警戒、インドネシアの海上保安機関との合同訓練などを通じて、海上交通路の安全確保を図る。

(海務部 事務局)

巡視船「せっつ」出港式の様子



左：第五管区 楯本本部長
中央：篠原理事長 右：瀬口長官



挨拶する篠原理事長



行動指令書交付
左：川崎船長 右：瀬口長官



巡視船「せっつ」



出港する巡視船「せっつ」